

組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

氏名： 小林 知	提出日：平成 24 年 3 月 30 日
東南アジア研究所における職名：助教 *右記の該当する職位に○をつけて下さい。(講師・○助教・助手・ポスドク・博士課程学生・修士課程学生・学部学生)	
派遣先の研究機関等(調査を実施した国名・機関名(日本語で記載)及びカウンターパート名)： ジュディ・レジャーウッド教授、北イリノイ大学人類学部・東南アジア研究所、アメリカ アン・ハンセン准教授、ウィスコンシン大学宗教研究プログラム・東南アジア研究所、アメリカ *派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所○をつけてください。(○大学・研究機関・企業・その他)	
派遣先の研究機関等での職名：Visiting Scholar	
派遣期間： 平成 23 年 10 月 31 日 ~ 平成 23 年 12 月 16 日 (派遣日数：47 日)	
研究活動等の主な内容(該当する番号に○をつけてください。複数可) ①研究・実験○ ②フィールドワーク ③セミナー ④インターンシップ ⑤サマースクール等の講習 ⑥学会出席 ⑦単位取得等 ⑧その他	
研究活動の主な領域(該当する番号に1つ○をつけて下さい。) ①人文学 ②社会科学○ ③数物系科学 ④化学 ⑤工学 ⑥生物学 ⑦農学 ⑧医歯薬学 ⑨総合領域 ⑩複合新領域	
派遣の概要(500~700字程度) <p>申請者は、1990年末よりカンボジア農村社会において人類学的な調査を行ってきた。カンボジアの社会と文化に関する現地調査にもとづく研究は、1960年代末から1990年代初めまで停止状態にあった。カンボジアは、1970年代に内戦と全体主義的支配を経験した後、1980年代は冷戦構造のもとで国際的な孤立状態にあった。北イリノイ大学のジュディ教授は、再開後のカンボジア社会研究を人類学的な視点からリードしてきた研究者である。また、ウィスコンシン大学のアン准教授は、カンボジア語で書かれた歴史資料を用いて19世紀から20世紀半ばまでのカンボジアについて旺盛に研究成果を発表している。今回の派遣は、この2人の教授のもとに長期滞在し、「カンボジアにおけるコミュニティと伝統」について現代的視点と歴史的視点の双方から議論をおこなうことを目的とした。まずジュディ教授とは、内戦期とボル・ポト政権時代(1975~79年)のカンボジア農村社会の総合的な状況について、お互いの調査村のデータに基づく討論をおこなうことを目指した。ジュディ教授が依拠するプノンペン近郊の調査村に関するデータと、申請者が調査を行うカンボジア中央部の農村の歴史的状況の間には、多くの相違点があるものと予想された。比較の視点にたったジュディ教授との議論は、カンボジアの社会に関する総合的な理解を推しすすめるために不可欠であった。一方で、アン准教授とは、カンボジアにおける仏教実践の伝統について議論をおこなうことをねらいとした。すなわち、フランスの植民地支配によって方向付けられた19世紀以降の近代の経験のなかで、カンボジアの仏教がどのような変容を遂げてきたのかという問題について、申請者がもつ農村での聞き取り調査の情報と、アン准教授が公表してきた文献調査との両方の視点から討論し、総合的な理解を発展させることを意図した。</p>	
事業に係る研究成果(500~700字程度) <p>北イリノイ大学のジュディ教授は、自分のために同大学の中央図書館内に1室を用意してくれ、約4週間のあいだの研究活動をサポートしてくれた。滞在中は、ジュディ教授を相手に、特にボル・ポト時代以後の農村社会の経験について討論した他、院生のセミナーに出席し、学生とも意見交換した。さらに、同大学の東南アジア研究所に所属する他の研究者とも親交を深めた。申請者はまた、現在大半が日本語でしか公表されていないカンボジア農村社会のコミュニティの再生に関する研究成果を、英語に翻訳する作業もおこなった。その成果は、来年度の2012年9月13~16日に同大学で開催される予定の“Imagining Cambodia: Cambodia Studies Conference”に参加して発表する予定である。</p> <p>ウィスコンシン大学のアン准教授も、2週間あまりの滞在中、同大学の図書室に1室を用意してくれ、申請者の研究活動をサポートしてくれた。ウィスコンシン大学に滞在中は、院生のセミナーに出席したり大学の研究室を訪問して、仏教を通してみたカンボジアの文化的伝統について意見交換を行った。さらに、12月9日には、同大学東南アジア研究所が主催するBrown Bag Seminarで“Sima and Barami: Rethinking Cambodian Syncretism through Buddhist institutions”というタイトルの研究発表を行った。</p> <p>また、ウィスコンシン大学でおこなった研究の成果は、帰国した後に別途参加したAssociation for Asian Studiesの年次集会(於、トロント。2012年3月16日)においても、“Discovering a Sima in a Forest: An Analysis of Cambodian perception on Buddhist practice and tradition”として発表した。</p>	

